

(別紙)

評価細目の第三者評価結果（共通）

※すべての評価細目（55項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。		
I-1-(1)-①	理念が明文化されている。	(a)・b・c
I-1-(1)-②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	(a)・b・c
コメント ・仏教保育に基づいた保育は開園以来一貫しており、“のびのびとした元気で明るい子”、“感謝の心で手を合わせる子”という保育方針は、園のしおりやホームページに記載されている。		
I-1-(2) 理念や基本方針が周知されている。		
I-1-(2)-①	理念や基本方針が職員に周知されている。	(a)・b・c
I-1-(2)-②	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	(a)・b・c
コメント ・“のびのびとした元気で明るい子”という保育方針は、保育計画の年間目標と一致しているため、全クラス共通であり、園全体で保育方針に基づいた保育が実践されている。 ・『今の子どもたちには、がまんする力が足りず、その力は小学生までに教えてあげなければならない』等保護者会や入園式・卒園式の際に、園の方針を保護者に伝達している。		

I-2 計画の策定

I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者評価結果
I-2-(1)-①	中・長期計画が策定されている。	a (c)
I-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a (c)
I-2-(2) 計画が適切に策定されている。		
I-2-(2)-①	計画の策定が組織的に行われている。	(a)・b・c
I-2-(2)-②	計画が職員や利用者にも周知されている。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資金の積立や職員が定着しやすい環境の整備等、経営を安定させることに取り組んでいるが、計画書は策定されていなかった。副園長の就任や設備の改修等、中長期の課題を整理し、解決に向けた計画書の作成が求められます。 ・入園式後に保護者会を開催し、バス遠足の実施や今後の保護者会の開催日時等について意見を聞き、その日のうちに職員会議を開催し、園の年間計画を策定している。 		

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
I-3-(1)-①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	(a)・b・c
I-3-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職務分担表を作成しており、園の最高責任者は園長であることを宣言し、各職場においては、各職員が責任者であるとの自覚を持つよう指導している。また、問題が発生した際は、園長自らその解決に向けて保護者宅を訪問する等、率先して行動している。 ・園長研修会や新保育指針に関する研修、労働保険の改正に関する研修等に参加し、関係法令の改正について情報を収集し、必要に応じ、研修会を開催している。 		

I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
I-3-(2)-① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。		(a)・b・c
I-3-(2)-② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。		(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長は、保育士の資格を有し、県保育協会の副会長や研修委員長を務める等、質の向上に意欲的であるが、ワンマンにならないよう、教材の選択や新しい取り組みに関して保育士の意見もよく聞いている。主任保育士の『好きなことをやらせてもらっています』という言葉が印象に残った。 ・職員が一致協力できるよう、職員間の格差をなくすべく、定数で必要な保育士は全員常勤にしている。また職員間で派閥を作り対立することがないように、一致協力するよう指導している。 		

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
Ⅱ-1-(1)-① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。		(a)・b・c
Ⅱ-1-(1)-② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。		a (b)・c
Ⅱ-1-(1)-③ 外部監査が実施されている。		a・b (c)
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在定員を超える申し込みがあり、地域の保育ニーズは十分にあるとの認識である。外的環境として、認定こども園の今後の動向に注目し、情報の収集を行っている。 ・問題が発生した際には、職員会で検討しているが、これまで順調に推移してきており、改善にむけた取り組みにいたる事例はないとのことである。また、外部監査も現状では、必要性は感じていないとのことである。 		

II-2 人材の確保・養成

		第三者評価結果
II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。		(a)・b・c
II-2-(1)-② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。		a・b・(c)
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、保育士の定数は、常勤雇用しており、今後も継続していきたいとのことである。主任をはじめ、ベテラン保育士が多く、職員の質には満足しているが、入れ替わりがほとんどないため、欠員が生じた場合は、若い職員を雇用する意向である。 ・『差をつけないことが組織の和を保つには大切である』との考えから、人事考課制度は導入していない。保育の技術、人間性、組織人としての役割等、園の基本方針を達成するために必要な職員像について、誰でもわかりやすい客観的な基準を設定し、職員の成長をサポートすることも大切である。 		
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。		(a)・b・c
II-2-(2)-② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる。		a・(b)・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用時から有給を10日間支給する、2時間単位で有給が消化できる等、職員の意向に配慮している。育児休業を利用する職員も多いとのことである。福利厚生については、職員からの要望があまりあがってこないこともあり、健康診断以外は特に実施していないとのことである。 		

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		第三者評価結果
II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。		a・b (c)
II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。		a・b・(c)
II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。		a (b)・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、食育に関する研修を重視しており、さらに、県の保育協会等が主催する外部研修には、職員を万遍なく参加させる等、研修に関する方針を確認したが、教育・研修に関する基本姿勢は明示されていなかった。職員に求める専門性や技術水準を明確にし、具体的な目標を明記する等の取り組みが求められます。 ・事業計画書には、研修の年間計画が記載されているが、職員一人ひとりについての計画は策定されていなかった。職員一人ひとりの持つ知識・技術水準・人間性等にはバラつきがあり、さらに職員一人ひとりについて将来への意向も様々である。それらを考慮した個人別の計画書を作成し、成長を後押しすることは、ハードルは高いが、今後重要だと思われる。 ・研修参加後は復命書とレポートを提出させ、職員会で研修内容を発表するなど、研修の成果を定期的にチェックしている。研修会で学んだわらべ歌を実践すると、他のクラスがそれをまねる等研修後の業務にも生かされている。今後、研修を一過性で終わらせることなく、受けてきた内容が現場で活かされているか定期的に検証し、次の研修計画に反映することが望ましい。 		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。		第三者評価結果
II-2-(4)-① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。		(a) b・c
II-2-(4)-② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。		(a) b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『自分達も実習生と受け入れてもらったから今がある』と職員に指導し、全職員が実習生にかかわるようプログラムを作成している。主な担当は主任であり、“笑顔と挨拶”が大事であることや園の保育方針、配慮事項について園長が説明している。 ・実習プログラムは、学校や実習生の希望を最優先し、原則全クラスを持ちまわる機会を設けている。また、誕生会にも扮装をして登場する等、こども達を喜ばせるための努力を身をもって体験させている。実習終了後には、全職員で反省会・慰労会を行い、保育士の夢がかなうよう激励しているとのことである。 		

II-3 安全管理

		第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。		
II-3-(1)-① 緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a (b) c	
II-3-(1)-② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a (b) c	
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生、感染症、不審者対応等緊急時の対応は、園長を中心に緊急職員会議で対応している。これまで、事故や感染症について大規模な事故が発生したことはないとのことであるが、緊急時の安全確保は、組織的かつ継続的に行う必要があります。マニュアルの整備、マニュアルに基づく研修、訓練等平常時の準備が求められる。 ・ケガや事故は、児童の記録に記載、職員会で報告し、注意をうながしている。1件の重大事故は300件のヒヤリハット（予兆）があるといわれています。ヒヤリハットの事例を収集し、その分析と対策を行うことも事故防止には重要です。 		

II-4 地域との交流と連携

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
II-4-(1)-① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	(a) b c	
II-4-(1)-② 施設（事業所）が有する機能を地域に還元している。	a (b) c	
II-4-(1)-③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a (b) c	
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、地域の文化祭に参加し音楽劇を披露している。また、年2回、特別養護老人ホームを訪問し、高齢者と触れ合う等地域との交流に積極的である。 ・市が主催する“子育てホット週間”の際、園開放をお知らせしているが、参加者は多くないとのことである。毎年定員を超える利用申し込みがあるということは、家庭保育で、悩みを抱えた保護者も数多いと考えられる。離乳食や発育の目安、子育てに関する講習会等の開催を期待します。 ・中学生の職場体験、実習生の実習前の見学ボランティア、歯なまる元気グループによる虫歯予防等、複数のボランティアを受け入れている。マニュアルは未整備であるが、受け入れに当たっては、“こどもが好きだから・・・”という安易な利用では受け入れず、素性が知れた地域のボランティアのみ受け入れている。 		

Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		第三者評価結果
Ⅱ-4-(2)-①	必要な社会資源を明確にしている。	(a) b・c
Ⅱ-4-(2)-②	関係機関等との連携が適切に行われている。	(a) b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、市、県保育協会の連絡会や研修会には、原則参加し、その都度職員に周知している。さらに、市の保育会では、気になる子どもについての事例検討会等が開催され、受け持っている担任が参加し、他園との情報共有にも積極的である。 ・地域の保育所、幼稚園、小学校の間で校種間連携が行われ、相互の見学会や進学時のクラス編成等、情報交換が行われている。 		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。		
Ⅱ-4-(3)-①	地域の福祉ニーズを把握している。	(a) b・c
Ⅱ-4-(3)-②	地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	(a) b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や行政機関、保育協会等の関係機関から地域の福祉ニーズを把握し、延長保育、障害児保育、一時保育等活動の幅を広げてきている。 		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	(a) b・c	
<p>コメント</p> <p>・保育計画や指導計画には、『一人ひとりの要求をできるだけ受け止め～』、『一人ひとりの健康状態に応じ～』等、子ども一人ひとりを受容する姿勢がうかがわれた。さらに、『クラス担任だけでなく、全員で子どもに対応しよう』という園長の方針も、子どもを重視した活動のひとつである。</p>		
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a・b (c)	
<p>コメント</p> <p>・守秘義務遵守を就業規則に記載しており、注意をうながしているが、マニュアル・規定は未整備であった。一口にプライバシーの保護といっても、その範囲は広いので、プライバシーに関する基本知識、場面ごとの留意点等、園のルールを文書化し、定期的な研修を実施することも重要である。</p>		
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。		第三者評価結果
Ⅲ-1-(2)-① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	(a) b・c	
Ⅲ-1-(2)-② 利用者満足の向上に向けた取り組みを行っている。	a (b)・c	
<p>コメント</p> <p>・バス遠足の開催や保護者会の日時について、保護者の意向を確認している。主任や園長が子どもたちと触れ合う時間も十分確保され、子どもたちの日常の様子を把握している。今後は、行事だけでなく、サービスの質について（接遇、保育内容、給食等）も定期的にアンケートを行い、その結果を分析し、その後の改善につなげることをお勧めします。</p>		

Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。		(a) b・c
Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。		a (b) c
Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。		a・b (c)
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員制度や苦情対応のフロー、対応結果の公表についてホームページに掲載し、さらに『何でも言える環境づくり』を園のモットーとし、園だよりも記載している。 ・主任を介し、大きい苦情になる前に、保護者からの意見をききとる場合がある。内容によって、朝のミーティングや定例会などで話し合い、解決するよう心がけている。場合によっては、園長・主任・職員が直接保護者との話し合いを設け、利用者が納得するよう努めている。苦情対応の経過が記録されていない場合があるようなので、今後の改善が必要です。 ・苦情や意見、要望は、その都度対応しているが、対応のマニュアルは未整備であった。保護者からの意見・要望を、園全体でどのように受け止め、対応していくのかを文書化することは、園の透明性を高め、保護者が意見や要望を言いやすい雰囲気をつくることにもつながります。 		

Ⅲ-2 サービスの質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。		
Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。		a (b) c
Ⅲ-2-(1)-② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。		a・b (c)
Ⅲ-2-(1)-③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。		a・b (c)
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の第三者評価受審によって、保育サービス全般について、保護者アンケート、自己評価、第三者評価等多面的に園の長所・短所が把握できたと思われます。いつまでに、どの項目を、どのように改善していくのかを明確にし、実践していくことを期待します。 		

Ⅲ-2-(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している。	第三者評価結果
Ⅲ-2-(2)-① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a・b (c)
Ⅲ-2-(2)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b (c)
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬の管理や、登園時の保護者とのコミュニケーション等、保育の場面ごとにルールが決められているが、文書化は不十分であった。園長、主任、クラス担任がベテランで、これまでは保育士個々の保育技術等で質を保ってきたが、そのノウハウを次の世代に引き継ぐためにも、保育の技術だけでなく、担任の引継ぎの手順等、園の運営についてのマニュアル化が望まれます。 	
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。	
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	(a)・b・c
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a (b)・c
Ⅲ-2-(3)-③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	(a)・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の記録がクラス別に綴じられ、入園時からの身体状況や生活状況を5領域に基づいて毎月記録し、主任、園長も回覧している。また、指導計画には、週案の実施記録が記載され、翌週、翌月の計画に生かされている。 ・子どもの記録は、種類毎に保管年限を定めロッカーに保管している。個人情報の保護の観点から記録の紛失や流失について、しっかりと管理するよう指導しているとのことであるが、評価基準では、保管・保存・廃棄、情報開示を求められた場合の対応について規定の整備が求められている。 ・毎朝のミーティングや定例会、緊急職員会議など必要に応じ、気になる事案や情報など全職員で共有し、話あっている。 	

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

		第三者評価結果
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。		
Ⅲ-3-(1)-① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。		○a・b・c
Ⅲ-3-(1)-② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。		○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに一日の流れ・年間行事等を公開し、園のパンフレットも準備している。見学者に主任が主に対応し、保育の時間がよく見れるように、10時からの見学を促している。 ・利用開始前には、園長・主任・クラス担任が各々面談し、保育内容や保育時間、保育料など詳しい説明をしている。 ・延長保育の時間や料金は、保護者に文書で周知し、保護者会でも説明している。 		
Ⅲ-3-(2)-① 事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。		○a・b・c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒園した子どもも大切にしており、保護者が相談にくることもあるとのことである。また、障害など特別な子どもは、退園後も保護者と連携するように配慮している。 		

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

		第三者評価結果
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。		
Ⅲ-4-(1)-①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-4-(1)-②	利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している。	a Ⓑ c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園時に生活調査票を保護者に記入してもらい、保護者と面接をしている。病歴などの追加項目は随時担任が記載している。 ・身体状況や家庭状況を入園時に聞き取り、利用者の要望などに基づき、一人一人の子どもの保育上のニーズや課題を把握している。しかし、ニーズや課題までの明記はされていなかった。 		
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-4-(2)-①	サービス実施計画を適切に策定している。	Ⓐ・b・c
Ⅲ-4-(2)-②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a Ⓑ c
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画書は全職員で作成し、各クラスの指導計画を担任が作成している。指導計画書は担任が、毎月月のねらいに基づき、評価をした後に、園長・主任が目を通し必要に応じて助言をしている。今後、他のクラス担任の意見を取り入れ、指導計画書作成で悩みなどを分かち合えるようにする取り組みが必要である。 		